

特別記事

病院における環境保護に向けた職員全体の意識改革とその成果
地球温暖化防止活動「創和会もったいないプロジェクト」

重井 文博 坪井 康 禎 橋本 泰 弘
瀧 正 史 横山 誠 二 渡 邊 清 博

看 護 管 理

第17巻 第1号 別刷

2007年1月10日 発行

医学書院



病院における環境保護に向けた 職員全体の意識改革とその成果

地球温暖化防止活動「創和会もったいないプロジェクト」

重井文博 しげい病院院長・医療法人創和会理事長
 橋本泰弘 重井医学研究所附属病院事務部総務課長
 横山誠二 医療法人創和会本部経営管理部課長補佐

坪井康禎 同事務部総務企画課長
 瀧 正史 同院長
 渡邊清博 同情報企画部長

「もったいないプロジェクト」 発足の背景と経緯

1958(昭和33)年5月に、岡山県倉敷市に設立された医療法人創和会は、1968(昭和43)年11月に県下で初のキール型透析装置を導入し、当時不治の病とされていた腎不全の治療に先駆的な役割を

果たしてきました。現在とともに腎疾患・透析医療を中心としたしげい病院(259床)と重井医学研究所附属病院(200床)、訪問看護ステーション、医学研究所を運営するとともに、グループ内に薬用植物園と昆虫館を併設し(<http://www.shigei.or.jp/>)、グループをあげて「自然保護活動」にも積極的に参加しています(表1)。

表1 施設概要

	しげい病院	重井医学研究所附属病院
診療科目	内科、腎臓科、外科、脳神経外科、リハビリテーション科、放射線科	内科、糖尿病内科、小児科、外科
入院病床数	259床 5病棟 一般病棟 50床(10:1) 医療療養型病棟 56床 障害者施設等一般病棟 51床(10:1) 回復期リハビリテーション病棟 48床 介護療養型病棟 54床	200床 5病棟 一般病棟 154床(10:1) 医療療養型病棟 46床
透析・他	透析センター 同時透析:98ベッド 血液透析患者262名 腹膜透析患者5名 総合リハビリテーションセンター	腎臓病・血液浄化療法センター 同時透析:120ベッド 血液透析患者315名 腹膜透析患者29名 肝臓病・消化器病センター 小児療育センター リハビリテーション(脳血管I)
関連施設	倉敷しげい訪問看護ステーション 倉敷しげい居宅介護支援事業所 通所リハビリテーション、通所介護	岡山しげい訪問看護ステーション 岡山しげい居宅介護支援事業所



表2 もったいないプロジェクトとは

- ・短期集中的に病院の環境負荷を軽減
→今出来ることは、すぐやろう！
- ・設備改善による環境負荷軽減
→投資コストを回収可能なら積極投資
- ・身近な電気や水の無駄使いから見直す
→使用量10%削減を目標
- ・コスト削減額を原資を次の活動へ
→自然保護のサイクルを回す

プロジェクト実践方法

1. 参加意識を持ち現場で活動……ボトムアップ型
2. 設備投資による環境改善……トップダウン型

創立者の重井博(故人)は、自然を愛し生き物を愛するやさしさをもった人であり、1963(昭和37)年11月に重井病院(現しげい病院)内に「倉敷昆虫館」を開設、1965(昭和39)年4月には倉敷市内に「重井薬用植物園」を開設、現在も無料で一般開放しています。重井博は1996(平成8)年に亡くなるまで「倉敷の自然を守る会」や「高梁川流域の水と緑を守る会」の会長として自然保護運動を続け、自然保護に携わる多くの人を育ててきました。

このような背景をもつ創和会が現理事長主導のもと、2005(平成17)年8月から新たにスタートさせた自然環境保護活動が、「創和会もったいないプロジェクト」です。プロジェクト名の「もったいない」という言葉は、ノーベル平和賞受賞者でケニアの副環境大臣のワンガリ・マータイさんが、「日本には、「もったいない」というすばらしい考えがある。世界に広げましょう」と国連で呼びかけており、私たちの活動を象徴する言葉としてふさわしいと考えました。「もったいないプロジェクト」と銘打って身近なエネルギーに関連する無駄を省く、すなわち京都議定書が掲げるところの「チームマイナス6%」と称する、CO₂削減に向けた地球温暖化防止活動に、病院をあげて参加することとしたものです。病院では、1日24時間稼働という特殊な業態からも、多量のエネルギーを消費しています。一方、京都議定書の発効に象徴されるように、早急な地球温暖化防止対策が叫

ばれるなかで、病院においても一般の企業と同等に省エネルギーへの対応が求められているところです。世界レベルでエコロジー(自然環境保護)の気運が盛り上がるなか、病院においてもエコロジーを組織のアイデンティティとして取り組むべき時代です。

そこで病院でも「もったいないプロジェクト」を立ち上げ、主として電気・水の無駄を取り除き、地球温暖化防止のためのCO₂削減をめざしました。

活動内容とその成果

プロジェクトは、身近な電気やガスといったエネルギーの使用量を、2004(平成16)年度対比で10%削減を目標としました。また、その結果生み出されたコスト削減金額を次なる省エネ活動への原資とすることで、プロジェクトのサイクルを回すこととしました。そしてプロジェクトを進めるうえで、理事長からの直接指示によるトップダウンと、職員からの提案によるボトムアップの二通りの方法を用いました(表2)。では、当院で実践してきたプロジェクトの内容と成果を、トップダウン型とボトムアップ型に分け、以下に示します。

- 設備投資を伴った
- 省エネ対策の具体例(トップダウン型)

(1) 太陽光発電システム(クリーンエネルギー)の導入による節電(重井医学研究所附属病院)

太陽光発電システムは総工費7770万円でしたが、1/2の補助があるため実質負担額3700万円の大規模な設備です。当院は、県医師会透析医部会防災対策ネットワークにおいて県下を三分割したその一つの地域である、岡山西部地域の大規模災害時中核病院に指定されています。太陽光発電システムは、その役割を果たすべく、「CO₂削

表3 太陽光発電・地下水利用の概要とメリット

<p>●太陽光発電の概要</p> <p>1. システム概要 補助制度：NEDOによる太陽光発電新技術等フィールドテスト事業(補助率1/2) 共同研究：4年間のデータ報告義務および5年後設置費用の5%を支払うことで所有権を購入 工期：2006年1～6月 2007年4月正式稼動 発電容量：70kW(3階屋上：20kW・4階屋上：30kW・7階屋上：20kW) 年間発電電力量：6万9792kW</p> <p>2. 地球温暖化防止への貢献度 削減電力(年間)：6万9792kW CO₂削減量(年間)：2万5055kg 1790本の樹木(杉)を植えたことに相当</p> <p>一般家庭換算：約20軒分(平均3600kW/年) 透析施行可能人数：約50人分(1kW/1人 4時間) 投資金額：7245万円(内1/2の補助あり) 投資金額回収年数：約25年</p> <p>3. メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO₂を発生しない自然エネルギー利用による、地球温暖化防止への貢献(CO₂削減に貢献) ・災害対策として最低限のライフラインの自主確保 ・透析患者さま、地域住民への安心感(危機管理・安心の確保) ・環境対策を実施している病院としてのイメージアップ(宣伝効果) ・電力需要のピークカット(電力のデマンドコントロールレベルの低減による電力料金の削減効果) 	<p>●地下水利用</p> <p>1. システム概要 工期：2005年10月～2006年5月 水量：20Q/分 年間水量：8760t(1日20時間ポンプ稼働時) 水質：水道水としての水質基準に適合 用途：透析用</p> <p>2. 地球温暖化防止への貢献度 削減水屋(年間)：8760t CO₂削減量(年間)：5081kg 363本の樹木(杉)を植えたことに相当</p> <p>一般家庭との比較：約24軒分/年間(平均1000Q/日) 透析施行可能人数：約48人分(0.5t/1人) 投資金額：約1000万円 投資金額回収年数：約5年</p> <p>3. メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・濁水時対策および災害対策として最低限のライフラインの自主確保 ・透析患者さま、地域住民への安心感(危機管理・安心の確保) ・節水による地球温暖化防止への貢献(CO₂削減に貢献) ・透析に利用することによる、水使用量の削減効果
--	---

減」とともに「災害時ライフライン確保」を目的に設置したものです。

NEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)による太陽光発電新技術等フィールドテスト事業の共同研究として設置したもので、工期は2006(平成18)年1月から6か月間。現在試験稼動しており、2007(平成19)年4月1日から正式稼動します。発電量は70kWで、県内ではトップ10に入る規模であり、年間の発電量は約7万kWです(表3)。

(2)地下水利用による節水(重井医学研究所附属病院)

水道水は、水源からの取水から蛇口までの間の各段階でエネルギーを消費しており、上下水1m³当たり電力に換算して5.98kWのエネルギー

を消費しているといわれており、その使用量の削減は、すなわち省エネルギーとなります。地下水の掘削工事は、病院敷地内で2005(平成17)年10月から2006年5月まで4本掘削し、そのうちの1本から地下水が得られました。水量は1分あたり20リットル(1日約24トン)で、年間約9000トンを予定しています。これも太陽光発電設備と同様、省エネルギー対策と同時に災害時および濁水時対策として設置したもので、そのまま飲料水の水質基準に適合しています(表3)。

透析においては、「水」と「電気」は患者さまの生命維持に必要な欠くべからざるものであり、その供給の停止はまさに「命の切れ目」となります。今回設置された設備により、濁水時および災害時に約50人の同時透析が可能な水をまかなうことがで



表4 反射板・反射キャップの設置、蛍光灯の取り替え

蛍光灯数	615本(24室)
三波長型昼白色蛍光灯への取替え本数	385本
反射板・反射キャップ箇所数	21か所
削減蛍光灯数	232本
照度	平均38%UP (最大58% 最小6%)
削減電力(年間)	2万4798kW
CO ₂ 削減量(年間)	8927kg
投資金額	81万1930円
年間電気料金削減金額	38万4371円
投資金額回収期間	2.1年

きます(通常の透析治療には1人1回0.5トンの水が必要)。また、地下水利用にあわせて60トンの受水タンクを増設しました。これにより270人分の透析を行なうことができる水量を確保しています。受水タンク造設と地下水掘削工事の費用は約1000万円で、これは上水道使用料金の減少により、5年で回収の予定です。

(3) 蛍光灯照明反射板・反射キャップによる節電(しげい病院)

不要な蛍光灯を単に消すと外すだけでなく、照度をアップする反射板・反射キャップを照明に設置することで、蛍光灯の本数をさらに削減しました。長期間使用した蛍光灯385本の省エネタイプである三波長型昼白色蛍光灯へ取り替え、21か所で反射板・反射キャップの取付けを行ない、合計費用は81万円でした。院内全蛍光灯数615本のうち232本も削減することができました。また反射板・キャップの設置で照度が平均38%もアップしたため、就労および療養環境の改善にもなりました。この結果、年間削減電力量は2万4798kW(CO₂削減量は年間約9トン)にもなり、年間電気料金削減金額は38万円となります。投資金額の81万円は、2.1年で回収することができます(表4)。

(4) 冷蔵庫と電気ポットの買い替えによる節電(しげい病院)

病院内にはたくさんの冷蔵庫がありますが、古

表5 冷蔵庫と電気ポットの買い替え

	冷蔵庫	電気ポット
買い替え台数	23台	8台
	45ℓ 1台	1ℓ→3ℓ 1台
	80ℓ 14台	2.2ℓ→3ℓ 1台
	140ℓ 3台	3ℓ→3ℓ 2台
	170ℓ 5台	4.2ℓ→3ℓ 2台
		4.3ℓ→3ℓ 1台
		3ℓ追加 1台
削減電力(年間)	6059kW	716kW
CO ₂ 削減量(年間)	1954kg	258kg
投資金額	66万5490円	7万9840円
年間電気料金	93908円	11098円
削減金額		
投資金額回収期間	7.1年	7.2年

い冷蔵庫は消費電力が大きいものに対して、最近の冷蔵庫はほとんどが省エネ型となっています。10年前の製品と比べると300ℓ型で約60%も消費電力が少なくなっています。そこで、10年以上使用した23台の冷蔵庫の買い替えを行ないました。費用は66万5490円でしたが、電力の削減から年間料金の削減額は9万3908円で、買い替え費用は7.1年で回収できます。この買い替えにより年間6059kWの電力が削減できることとなります(表5)。

また電気ポットも同様の発想から、8台の省エネ機種への買い替え・追加購入を実施しました。この結果、年間716kWの電力削減ができ、買い替えによる投資金額は7.2年で回収できます。このように、エコ製品への買い替えによる省エネ対策も積極的に進めました。

- 身近なところから
- 電気と水の無駄を省いてCO₂削減
- (ボトムアップ型)

しげい病院の2004年度使用量は、電力300万kW(4500万円)、水道5万4000t(2900万円)でした。前年比10%削減を目標に、2005年8月より全職員で電気・水道の無駄や非効率を取り除く行動を開始しました。職員からの提案によるボト

表6 もったいない実践項目

<p>●節電対策 冷蔵庫の冷蔵室用カーテンの設置 西日対策に「たてす」の利用 便座ウォーマーの温度調整 ウォシュレット水温を下げる(7~9月) 遮熱フィルム・カーテンの設置 サーキュレーターで室内温度差の解消 湿度・温度計の購入 蛍光灯に高効率反射板を着装し本数半減 照明スイッチ増設 古い蛍光灯の取り替え 蛍光灯に紐スイッチ取り付け、こまめに消灯 不要箇所の蛍光灯取り外し 日中は支障ない限り消灯 人感センサー照明の設置 看板点灯照明時間の見直し 待機電力カット(スイッチ付きコンセント)の設置 デマンド管理システムの導入 省エネ電気製品へ買い替え(冷蔵庫・電気ポット・エアコン) 透析センター空調設備などの改修 電源チェッカーによる電力量の測定 冷蔵庫使用上の注意をマグネット貼付</p> <p>●節水対策 止水栓の調整 トイレへ「音姫」(擬音装置)の設置 ウォシュレットトイレの水量を「小」に設定</p>	<p>トイレ流水量の測定(止水栓の調整必要の有無) 浴室のシャワーヘッドをストップ付きに変更 定量止水器の設置で厨房蛇口の流水量を調整 製氷器の不用水を植木類への散水に利用 雨水の利用(池に導入) 天井エアコンの結露水を池へ 流量自動止水装置(風呂水用)を設置し、池への水道水の注水量をコントロール 透析に利用するRO水(逆浸透法精製水)有効利用 水槽にこけの抑制・青こ・白濁り除去剤</p> <p>●職員への啓発・啓蒙と広報 「チームマイナス6%」に参加 車と玄関に「チームマイナス6%」の啓発ステッカー貼付 車にエコドライブステッカーを貼付(ふんわりアクセル「eスタート」・アイドリングストップ) 売店と薬局で買い物ビニール袋を削減 ウォームピズの実行 省エネステッカーと液晶温度シールで啓発 省エネバッジ・省エネパトロール腕章で啓発 毎月電気・水道使用量等を朝礼で発表 院長から朝礼での啓蒙 ホームページにもったいないプロジェクトのページを開設し情報発信 院内LANで実践などを報告 プロジェクト会議毎月1回開催(議事録の公開) 購入要請書に機器の電気使用量と金額、環境配慮事項の記載を義務化</p>
---	---

ムアップとしては、「もったいないプロジェクト」の委員を各部署から2人選出し、身近なところでの省エネを提案、実行しました。対策を実行したことで暗くなるとか、不便になるのを我慢するというのではなく、もったいないと思われるところの節電、節水を行ないました。具体的な対策は、次の通りです。

もったいない実践項目(1)——節電

表6に示したように、節電対策は、(1)温度管理による節電、(2)照明機器の改良による節電、(3)使用方法の改良による節電、(4)機器の買い替えによる節電、を同時並行で行ないました。「たてす」を利用した西日対策や、窓ガラスの遮熱フィルム・カーテンの増設、サーキュレーターで空気を循環させて室内温度差を解消するなどを行な

いました。冷蔵庫など電気製品の買い替えによる節電と同時に、冷蔵庫を後壁面より5cm離すことの徹底、冷蔵庫設定温度の季節での調整、冷気を逃さない工夫としての冷蔵室用カーテンの設置や、上手に利用するための注意書きをマグネット貼付しました。ウォシュレットトイレは、季節で便座ウォーマーや洗浄水の温度調整をするなど、細部まで対策を実行しました。

また、任意設定した電力使用量上限値に達したことを知らせるデマンド警報装置を採用し、2006年6月より警報時に電話やチャイムによる連絡で、各部署がマニュアルに従い、エアコン、照明、プリンターなどの電源を10分間程度切るなどを実行しています。電力需要が年間でピークとなる7、8月では大きな節電効果を発揮しており、7月の



最大使用電力量は昨年の 590 kW から 528 kW に削減することができ、月間 27240 kW の使用電力削減につながりました。当院は電力料金のデマンド契約をしており、次回の契約更新時には契約料金の削減が期待できます。

もったいない実践項目(2)——節水

節水対策は、(1)水量コントロールによる節水、(2)雨水・排水の再利用による節水を実施しました。ウォシュレットトイレの水量を「小」に設定、止水栓の調整や定量止水器の設置で厨房蛇口流水量の調整などによる節水の他、製氷器の不用水を植木類へ散水、雨水や天井エアコンの結露水を配管の移動で池に誘導、透析の廃水をクーラーの冷却水に使用するなど、これまで捨てられていた排水の再利用など、職員からの提案による節水対策を積極的に実施しました(表6)。

もったいない実践項目(3)——職員への啓蒙・啓蒙と広報

プロジェクトの浸透・啓蒙のため、朝礼では、院長が地球温暖化の現状や危機的な将来予測について「チームマイナス6%」のホームページにある啓蒙用動画などをプロジェクター映写で紹介するとともに、プロジェクトのマネジャー(プロジェクトマネジャー)が、毎月の電気・水道使用量の状況をグラフ化して報告しています。

「チームマイナス6%」に団体として参加し、病院玄関と業務車両に「チームマイナス6%」の啓蒙ステッカーを貼付して、職員およびクライアントや業者に地球温暖化防止プロジェクトへの参加協力を呼びかけました。照明やエアコンのスイッチに省エネステッカーや液晶温度シールを貼り付けたり、省エネバッジ・省エネパトロール腕章を、院長始め幹部職員、プロジェクトメンバーが身につけ、職員を啓蒙・啓蒙しました。「チームマイナス6%」では温暖化防止に6つのアクションをあげていますが(1. 温度調節 2. 水道の使い方 3. 自動車の使い方 4. 商品の選び方 5. 買いた

物とごみ 6. 電気の使い方、<http://www.team-6.jp/about/index.html>より)、これらのすべてを実行すべく、業務車両にエコドライブステッカーを貼付してアイドリングストップを実践。また薬局での薬の持ち帰り用ビニール袋や売店でのレジ袋の削減への協力をお願いしたところ、ただちに約1割減少と効果が現れました。

一方、院内 LAN を利用して実践状況やエポックな話題、実例を毎日報告、また「チームマイナス6%」の活動や家庭での身近な CO₂ 削減事例を紹介し、職員を啓蒙しました。さらにプロジェクトマネジャーは毎日1時間、省エネパトロールを行なうことになっており、これも啓蒙に効果を発揮しています。

当院ホームページには、もったいないプロジェクトのページ(<http://www.shigei.or.jp/shigei/mottainai-news.htm>)を開設しています。もったいないニュース、電気・水の削減状況、活動内容などを毎月発信しています。また、物品購入稟議書に機器の電気使用量と金額および環境配慮事項の有無記載の欄を設けて義務化し、節電対策の有無を考慮のうえで購入決定するなど、ハード・ソフトの両面から省エネを実施しています(表6)。

● しげい病院での ● もったいないプロジェクト実践結果

2005年8月のプロジェクト開始から2006年7月までの1年間の実践結果は、水道使用量▲4179トン(7.7%減、235万円減)と順調に推移しており、前年比10%削減の目標まであと一歩となっています。一方、電気使用量は、同前年比3.3%減(▲95843kW、128万円減)で、冬の厳しい寒さによる暖房稼働増が響いたようですが、12月以降は、4月を除き使用量が順調に削減されています。この結果、1年間のエネルギーコスト削減額は合計363万円、CO₂削減量は36.9トンでした。

一方、プロジェクト開始以来の省エネ対策に要した設備投資額は、電気関連で229万円、水道関連で38万円、地下水関連で190万円、合計457万円でした。

プロジェクト推進のポイント

● 「チームマイナス6%」への参加

身近な省エネには、職員一人ひとりの意識が大切であり、職員が主体的に参加できるよう心がけました。啓蒙のためのさまざまな取り組みのなかでも成果が大きかったのは、やはり「チームマイナス6%」への参加であったと考えています。当院は全国で最も早く、「チームマイナス6%」に参加している病院の一つでもあります。政府が音頭をとる地球温暖化防止のこの国民運動は、大手企業から個人まで、広く参加者が増加しており、マスコミなどでもロゴマークをしばしば目にするようになりました。このロゴマークを院内外に貼付することが、職員の活動参加への大きな意識付けの端緒になりました。「チームマイナス6%」ではその延長線上に「クールビズ」を提唱しており、当院でも7~9月まで実施しています。

● 25年分のクリーンなエネルギーを前払いで購入

これまで述べたように、職員の主体的参加が進んだとしても、老朽化した設備のままでは大きなエネルギー使用量の削減は期待できません。そこで私たちは、費用対効果を検証のうえで、積極的に設備投資を行ないました。プロジェクト開始以来、数々の投資を実施しましたが、象徴的な取り組みが太陽光発電と地下水の利用です。太陽光発電システムは総工費7770万円(実質負担額3700万円)の大規模な設備です。このシステムから生

み出される電気で実質負担額を回収するには、おおよそ25年と想定していますが、「25年分のクリーンなエネルギーを前払いで購入しよう」と考えて実施したものです。今後、長い目でみて、化石燃料資源の枯渇は明らかであり、エネルギーコストの上昇は避けられません。そのためのいち早い対策でもあります(表3)。

● QC活動的にプロジェクトを推進

機器の買い替えや節電・節水器具の購入など、費用を伴う省エネは、職員からは提案しにくいところがありますが、この点に関しては理事長が率先して省エネ対策を提案し、実行に移しました。一方、職員からの提案によるボトムアップについては、しげい病院では「ローコストオペレーション」と称するQC活動的な経費削減対策を2002(平成14)年から実施しており、そこでは各部署から毎月经費節減の提案がなされ、毎年700万円から2000万円の経費節減が実施されてきました。このようなQC活動的な取り組みのなかで職員からの提案システムが自ずと構築され、「もったいないプロジェクト」においても効果的に作動しました。職員一人ひとり、身近に気がつくところから省エネ対策が提案され、スムーズに実行に移すことができました。一方で幹部職員向けにはバランスト・スコアカードを活用することで、プロジェクトの意義共有を図りました(図)。

今後の課題と目標

理事長主導で始められた創和会地球温暖化防止「もったいないプロジェクト」は、法人全体では1年間でCO₂換算約46.9トン、電気・水などのエネルギー使用料金を581万円を削減することができました。一方、プロジェクトへの投資額は395万円(太陽光発電と地下水利用設備投資額を除く)で



図 創和会もったいないプロジェクト バランス・スコアカード

理念：私たちは、人と自然を大切に未来に夢をつなぎます

方針：電力・水道・ガス・灯油の無駄を省くことで、地球温暖化防止に貢献します

領域	めざす目標	目標達成のポイント	数値目標	行動計画
外部社会	・自然環境にやさしい病院としての評価を受ける	・メディアからの注目 ・医療関係者の注目	・TV・新聞に掲載：1回以上 ・学会で発表：3題	・メディアを利用した情報発信 ・広報誌・ホームページ・院内ポスター ・チームマイナス6%でアピール更新 ・2006年日本病院学会で発表
財務	・経費削減で次なる環境改善への投資資金獲得	・費用対効果を検証 ・長い目で見て回収できるならOK	・3年以内に投資額の回収	・電気・水道・ガス・灯油使用削減プラン ・投資コストの管理・把握 ・費用対効果検討 ・デマンドコントロール実施
業務改善	・院内の「もったいない」を総点検し、環境にいいことはすぐやる	・無駄な電気・水の利用をやめる ・省エネ設備・機器	・使用量対前年比10%削減 電気 29.4万kW 水道 5408t	・プロジェクトチームの立ち上げ、アクションプランを立てて実行する ・データベース化 例えば、購入稟議書へ電力使用量・省エネ度検討結果についての記載の義務化
人材育成	・職員の環境問題への意識の向上	・全部署で実践 ・意識改革 ・全員で参加	・毎回の朝礼で啓蒙 ・委員会開催毎月1回	・掲示板記載 ・朝礼・院内ネットで啓蒙

あり、エネルギー費用の削減で、年数の長短はあるものの全額回収することができます。またプロジェクトの一環として、太陽光発電システムと地下水の利用が、当会の主たる医療提供内容である透析の危機管理対策としても設置することができました。この投資費用は高額ではありますが、それぞれ25年と5年で回収することができ、費用対効果を考えると十分採算が取れる事業と言えます。これらは「自然環境にやさしい病院」たらんと、環境保護、災害への対策に重きを置いたものであり、また地球温暖化防止に十分貢献できるものと考えています。

短期的な活動として行ってきた「もったいないプロジェクト」ですが、大規模な設備投資も、稼動に移る段階まで来ました。重井薬用植物園や倉敷昆虫館とともに、この活動を息の長い活動と

して、法人全体で地球温暖化防止活動として行なっていくことが、今後の課題であると考えています。地球温暖化の防止は、病院のこれからの課題としても極めて重要なものと思われまます。この課題克服をめざすことは、同時に病院経営の効率化を促進するものであり、ひいては病院の質向上につながっていくものと思われまます。今後、当院のみならず、このような取り組みを行なう病院が増えていくことを願っています。

しげいふみひろ ● しげい病院
〒710-0051 岡山県倉敷市幸町2-30